

# 一人一人の子どもを主語にする 学校教育の実現に向けて

～全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」～

このリーフレットは、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた実践事例を掲載し、日常の授業づくりや校内研修のヒントになるよう作成したものです。

## 主な実践事例

### A 子どもが「自分（たち）で学び取る」授業

小学校 第5学年 体育科、小学校 第2学年 国語科 →P. 2

### B 子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業

小学校 第4学年 国語科、中学校 第3学年 理科 →P. 3

### C 子どもが安心して、進んで取り組める授業

小学校 第5学年 国語科、小学校 第3学年 国語科 →P. 4

1年次は、「授業において大事にしたいこと」として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて大事にしたい3つの視点を設定しました。

2、3年次は、この3つの視点を基に授業実践を行いました。

## 授業において大事にしたいこと

### A 子どもが「自分（たち）で学び取る」授業

P.2

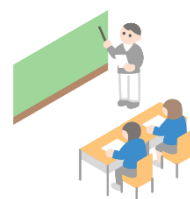
#### ○ 子どもが主体的に学習を進めるための工夫

→ 小学校第5学年 体育科「器械運動 跳び箱運動」

#### ○ 子どもが意欲的に交流するための工夫

→ 小学校第2学年 国語科

「登場人物が考えていたことをそうぞうしよう」



### B 子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業

P.3

#### ○ 子どもの必要感を重視した活動の工夫

→ 小学校第4学年 国語科

「伝わりやすい組み立てを考えて書こう」

#### ○ 教師の発問や声かけの工夫

→ 中学校第3学年 理科

「自然環境や科学技術と私たちの未来」

### C 子どもが安心して、進んで取り組める授業

P.4

#### ○ 協力して話合いを行うための工夫

→ 小学校第5学年 国語科「立場を明確にして話し合おう」

#### ○ 子どもが進んで自分の考えを表現するための工夫

→ 小学校第3学年 国語科

「場面をくらべながら読み、感想を書こう」

# 実践事例 A 子どもが「自分(たち)で学び取る」授業

## ○ 子どもが主体的に学習を進めるための工夫

### 小学校第5学年 体育科「器械運動 跳び箱運動」

展開

- 学び方の再確認
- 一人一人の目標の確認(オクリンクプラスの振り返りを振り返りに)
- 技みがきTIME

**学び方の工夫**

「オクリンクプラス」の振り返りを活用し、自分の学び方を再確認する。

自分の目標をクリアするために、自分に合った学び方を考える。

仲間と協力してアドバイスやアドバイスをもらい、練習を楽しくする。

フロンティアカードを使い、どのように学ぶかを決める。

**学び場の工夫**

「フロアチャート」を位置づけ、それぞれの技の自分の現在地(到達度)が視覚的に分かるようにする。

「学び方」「学ぶ場」「動きのコツ図」を常時掲示しておく。

**自己選択**

**本時のゴール**

**もっと美しく技ができるようになる!**

自分は手を速くに着くのを前張りたいからアガマウンテンゾーンで練習しよう!

練習を重ねて美しく技ができるようになっていこうと思うから、自分の技を仲間と一緒に見てもらおう!

今、学んでいる場は自分に合った合っているのかな?動画を見返したりアドバイスをもらったりしよう!

すごくきれいだね!前よりも手を速くに着いていていいね!着地もピタッとすると完璧だね!

自分はできていると思っていたけど、先生のアドバイスをすごく納得した。そのアドバイスを生かして跳んでみよう!

最初よりも動きのポイントが完璧になって技を美しくできるようになった!

着地のとき、視線が手過ぎるから体が前のめりになっていると思う。サットの奥を見ることを意識してみたら?

☆子どもが自ら目標を設定し、自分に合った「学び方」「学ぶ場」を選ぶ仕組みを整える。

◇毎時間、振り返りのカードに「フロアチャート」を位置づけ、それぞれの技の自分の現在地(到達度)が視覚的に分かるようにする。そうすることで、本時での目標を設定する際にそれを振り返りの一つとし、学びを進めることができる。

◇「学び方」「学ぶ場」「動きのコツ図」を常時掲示しておく。そうすることで仲間同士で伝え合う際に自分の感覚だけで話すのではなく、根拠をもって話すことができる。

## ○ 子どもが意欲的に交流するための工夫

### 小学校第2学年 国語科「登場人物が考えていたことをそうぞうしよう」

時	○学習活動 ・児童の反応	◇留意点 ☆評価
導入	<p>○前時の学習を振り返る。</p> <p>前時に考えたおにの子の人物像を振り返り、本時の課題につなげる。</p> <p>○ B 子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業</p> <p>・言語活動を常に明確にすることで、本時の学習が単元のゴールにどう生かされるのかについての共通理解を図り、必要感のある課題設定につなげることができる。</p> <p>○ C 子どもが安心して、進んで取り組める授業</p> <p>・黒板にカテゴリ化された意見を見て、子ども自身が「自分と同じ」「自分と違う」と明確に立場を理解した上で、次の学習活動に向かうことができる。</p>	<p>◇「物語の続きを書く」という単元のゴールを確認し、本時の目的意識をしっかりと持つことができるようにする。</p> <p>◇どんな人物像を考えたのか黒板に可視化する。</p>



☆児童が自分の立場を黒板上に示し、自他の立場を確認する場面を設ける。

【補足資料】  
授業写真  
ワークシート

# 実践事例 B 子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業

## ○ 子どもの必要感を重視した活動の工夫

### 小学校第4学年 国語科「伝わりやすい組み立てを考えて書こう」

4	<p>○見学してきたことをもとに、伝えたいことを決める。</p> <p>○見学を経て、どんなリーフレットを書きたいか、話し合っって共通認識を図る。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東っ子や親(美瑛町民)にとって、身近でわかりやすいもの</li> <li>・情報が正確なもの</li> <li>・リーフレットを見た人の行動が変わるようなもの</li> </ul> <p>○取材メモを作成する。(ロイロノート)</p>		①(観察・ICTの記述)	
---	--	--	--------------	--

○ B 子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業

- ・社会科見学で気が付いた問題意識(美瑛町の最終処分場には、限りがあるのに、可燃ごみは増えている)を基に、リーフレットを書くことを児童と共有する。

☆他教科で学習したことを生かした題材を設定する。

## ○ 教師の発問や声かけの工夫

### 中学校第3学年 理科「自然環境や科学技術と私たちの未来」


展開	<p>○レポート作成に向けて、大切にしたいことや流れの確認</p> <p>①「良い環境とは？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・里山と都市の絵を並べて選択する</li> </ul> <p>②「良い環境への関わりとは？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたは1次産業で働いています。獲っている生物の減少により、このままでは仕事が困難になります。あなたはどの選択が正しいと思いますか。</li> <li>・獲れるうちに獲り尽くす</li> <li>・生物が増えるまで別の仕事を探す</li> </ul>	<p>◇里山を選ぶ生徒が多かった場合には、「この生活がしたい？」とゆさぶりをかける</p> <p>◇生きるために必要な仕事だからこそ、どの選択肢もありえることを認める</p> <p>◇レポートでは解決に向けて考えることから、「獲り尽くす」の発想は控えることを確認する</p>
----	---	---

☆考えの根拠を引き出したり、多面的に考えたりすることができるよう問い返しをする。

# 実践事例 C 子どもが安心して、進んで取り組める授業

## ○ 協力して話し合いを行うための工夫

### 小学校第5学年 国語科「立場を明確にして話し合おう」

時	○学習活動 ・児童の反応	◇留意点 ☆評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時までの学習内容を振り返る。</li> <li>・話し合いのテーマと立場(利点・問題点)と主張を確認する。</li> <li>○ 掲示物を用いて、ディベートの流れとルールを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇(前時に引き続き)立場別ワークシートの活用</li> </ul>
	<p><b>C 子どもが安心して、進んで取り組める授業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちよく話し合いをするためのルールを児童と確認する。</li> <li>・考えを深め合うには何をポイントに話し合いを聞けばよいか考える。</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ディベートの流れを確認する 掲示物の活用</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ めあてを確認する。</li> </ul>	

☆話し合いの目的やルール、活動の流れを確認する。

## ○ 子どもが進んで自分の考えを表現するための工夫

### 小学校第3学年 国語科「場面をくらべながら読み、感想を書こう」

展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2場面の時、場所、登場人物、様子を見つけて書く。</li> </ul> <p><b>C 子どもが安心して、進んで取り組める授業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の学習ペースに合わせて、ワークシートを選択させる。</li> <li>・ICT 機器を使用する際、音声入力も活用できることを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ワークシートを、紙媒体かICT機器(Tomolinks)のどちらで書くのかを選択させる。</li> </ul>
----	--	---

☆教材を複数用意し（紙ワークシート・デジタルワークシート）、児童が自分の学びに合った手段を選択できるようにする。

# 研究内容2 子どもの成長を支える連携・協働体制の構築

## 事例1 「2つの教育研究所による合同研修会の実施」



### <連携・協働に係る取組>

近隣にある2つの教育研究所で研修会を共催した。

### <連携・協働することにより考えられるメリット>

#### ○ 大規模研修の実現

・会場費や講師謝礼等のコストを分担することができるため、より規模の大きい研修を実施しやすくなる。

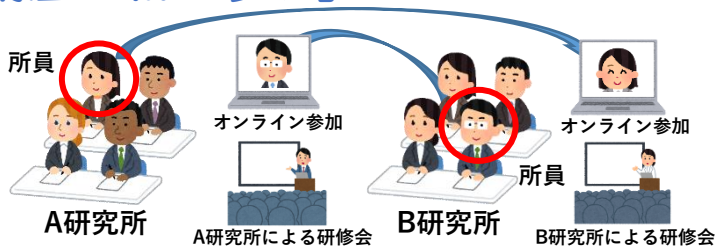
#### ○ 運営者の負担軽減

・運営に当たる人数が増え、事務作業や当日の役割を分担することができるため、運営者の負担が軽減される。

#### ○ 交流の活性化

・所属の研究所を越えたネットワークが形成されるため、所員の交流が活性化する。

## 事例2 「研究所間で研修講座の相互参加」



### <連携・協働に係る取組>

各研究所で開催する研修講座の情報を共有し、オンラインで相互参加できるようにした。

### <連携・協働することにより考えられるメリット>

#### ○ 研修機会の拡大

・他地域の研修に参加できるため、多様な教育実践や新たな視点の獲得につながる。

#### ○ 研修内容の充実

・各研究所・センターが持つ専門的知見や実践事例を共有できるため、研修内容の質の向上が図られる。

#### ○ 効率的な研修運営

・研修会の運営に係るノウハウを共有できるため、効率的に運営できる。

### <今後に向けて>

・連携・協働する際には、一方の研究所・センターに負担が偏らないような環境づくりや互いにとってメリットのある取組について検討していく必要がある。

# 第18次共同研究推進委員

## 令和5年度（2023年度）

委員長 十勝教育研究所  
副委員長 北海道立教育研究所  
委員 石狩教育研修センター  
後志教育研修センター  
上川教育研修センター  
留萌管内教育研究所  
胆振教育研究所  
室蘭市教育研究所  
釧路教育研究所  
札幌市教育センター  
北海道教育大学へき地・  
小規模校教育研究センター  
北海道立教育研究所

山本 由佳  
八重澤 純一  
佐々木 孝行  
鶴見 孝卓  
河野 哉翼  
柳谷 志恵  
黒川 知吾  
棟方 伸未  
小林 拓み  
横内 のぞみ  
芳賀 均  
甲谷 聡枝



令和5年度  
実践事例バンク

## 令和6年度（2024年度）

委員長 網走地方教育研修センター  
副委員長 北海道立教育研究所  
委員 石狩教育研修センター  
空知教育センター  
上川教育研修センター  
宗谷教育研修センター  
渡島教育研究所  
胆振教育研究所  
根室教育研究所  
札幌市教育センター  
北海道教育大学へき地・  
小規模校教育研究センター  
北海道立教育研究所

米倉 完  
吉村 暢起  
武田 寛史  
寺田 恵輝  
林 尚利  
石戸谷 和望  
石井 知恵  
黒川 拓真  
水口 のぞみ  
横内 のぞみ  
芳賀 均  
佐々木 祥悟



令和6年度  
実践事例バンク

## 令和7年度（2025年度）

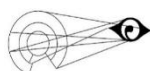
委員長 胆振教育研究所  
副委員長 北海道立教育研究所  
委員 石狩教育研修センター  
空知教育センター  
檜山教育研究所  
十勝教育研究所  
上川教育研修センター  
留萌管内教育研究所  
根室教育研究所  
札幌市教育センター  
北海道教育大学へき地・  
小規模校教育研究センター  
北海道立教育研究所

黒川 知恵  
佐々木 祥悟  
湯川 唯人  
寺田 恵紀  
安田 善紀  
中村 俊太  
相澤 正一  
佐治 麻里子  
熊谷 恒平  
横内 のぞみ  
芳賀 均  
土田 萌実



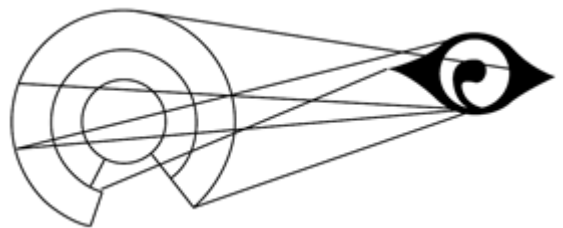
令和7年度  
実践事例バンク

実践事例バンクは、北海道教育研究所  
連盟ホームページに掲載しております。



北海道教育研究所連盟ホームページ  
<https://www.dokenren.hokkaido-c.ed.jp/>





**【連盟図】**

貝殻状の眼は、教育研究の中心を象徴し、北海道を表す三重の同心円と結び合うことで、連盟の組織のつながりと広がりをイメージしています。（昭和44年作成）